



University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.31 No.2 (No.118) Apr. 1998

新入生諸君へ — キャンパスライフ雑感 —

附属図書館長 金城 昭夫

新入生諸君、晴れの入学おめでとうございませう。世俗には今暗雲が垂れ込めている。銀行、証券会社の大型倒産。国は多額の借金を抱えて、行政改革は焦眉の急だという。アジア諸国は通貨不安におちいり、世界のここかしこでは相も変わらず紛争が続いている。また、二酸化炭素の出し過ぎなどで地球そのものが危機に瀕して

いるといわれる。そういう世紀末に諸君は入学したわけですが、幸いに二十一世紀の夜明けと共に社会へ出ていくことになります。夜明けは常によいものです。この4年乃至は6年の間に十分に英知をやしなうて素晴らしい二十一世紀を切り開く基礎を築くことを期待します。

二十一世紀は国際化と情報化の時代といわれ

目	次
新入生諸君へ—キャンパスライフ雑感—…… 1	消防訓練の実施…………… 9
CD-ROM情報検索システムの使用方法(6) … 3	新入生のための図書館ツアー…………… 9
J O I S 講習会を開催…………… 5	琉球大学附属図書館のあゆみ - 2 - ……10
ライブラリー・ワークショップ・	本学紀要類紹介：—シリーズ10～12— ……16
プログラム…………… 6	沖縄関係資料新着案内……………19
図書館映画鑑賞会…………… 7	本学教官著作寄贈図書案内……………22
検索用端末の増設とCD-ROM	図書館事情……………23
データベースの追加について…………… 8	沖縄県大学図書館協議会講演会……………23
お知らせ…………… 8	図書館年間主要スケジュール(平成10年度) ……24

附属図書館のホームページ (<http://lib1.lib.u-ryukyu.ac.jp/>) もご覧下さい。

る。インターネット上には世界の情報が洪水の如く氾濫するだろう。情報を正しく選択することは、いつの時代でも重要であったが、インターネット時代ほどに重要であったことはこれまでに無かったとおもわれる。情報の選択能力を培うには、専門の分野だけでなく、いろいろな分野の本を読むことが大事であることは言うまでもないが、良き友をたくさんつくり切磋琢磨することもまた極めて重要である。インターネット時代のように各自が殻に閉じこもり個人単位で情報に晒される時代においては尚更である。

かつて、キャンパスには「五月病」と呼ばれる新入生の「病気」があった。長く苦しい受験勉強の末にやっと入った大学。希望に胸をふくらませて大学の門をくぐると、待ち受けていたのは、期待はずれの講義と個人主義的な風潮の強い、疎外感を感じさせる大学生活であった。高校迄のようなクラスへの帰属感は弱く、人間関係の希薄さに耐えかねて孤独感を募らせる新入生も多かったようである。ゴールデンウィークが終わるころ、新入生をとらえた失望と寂寥感はやがて無気力へと変わり、大学へのかかわりも減退して自分の殻に閉じこもり、連休明けには授業の出席者がぐっと減るとというのが通例であった。五月病と呼ばれるゆえんである。

しかし、最近こうした五月病がどの大学でも減っているという。近頃の学生たちは、五月病を回避して、スムーズに大学の世界にとけ込んでいると考えられる。なぜ、学生たちはスムーズに大学にとけこめるようになったのか。ひとつの理由は、先輩達から引き継がれた貴重な情報が新入生に引き継がれているためといわれる。鬼仏表などの教官や授業の情報、サークル関係の情報や大学周辺の情報などである。そのため大学の授業や大学生活にむやみに高い期待を抱くこともなくなり、それだけ後の失望も小さくなることになる。五月病がなくなった理由が、学生の学習意欲の高まりではなく、現実を知り無闇に高い期待を抱かなくなったためと知って、がっかりする向きもあるが、私はそれはそれで良いことだと考えている。殻に閉じこもっていた学生の中に連帯意識が戻ってきたと思われるからである。

1960年の安保闘争の頃までは学生の中に共通

の問題意識というか、連帯感があった。クラスや自治会で決めたことは自分の考えと反対であっても、従うか精々沈黙を守るかであった。60年代末の大学紛争の時代になると自分の方針に反するときには組織をわり、価値観・思想を同じくするグループに小さく分裂するようになった。70年以降、自己中心的な傾向はさらに強まり、クラスの連帯感さえ希薄になった。五月病の発生も時期を同じくしているように思われる。ミーイズムが世界的な現象になったのもその頃である。

しかし、最近学生達は自分の意思で行う活動に関しては、たとえば奉仕活動の面などで見事に連携して素晴らしい手腕を発揮するという。阪神大震災や北陸のロシアタンカーによるオイル流出事故に見られるとうりである。個人主義の時代における社会的連帯の新しい形態が形成されつつあるといわれている。多様化する社会にあって、ややもすると孤立しがちな時代に新しい連帯感が芽生えてきたことは頼もしいことである。私の身近でもクラスの仲間同士、あるいはクラスを越えて、グループをつくりスポーツなどを楽しむ学生達がふえている。皆さんが在学中に自分の殻を破って多くの良き友をつくることを期待します。社会へ出たとき、かけがえのない財産にもなります。

取り留めのない話になりましたが、図書館には人間の英知を集めた万卷の書があります。更に、いろいろな分野の情報を的確迅速に探す方法についてアドバイスする館員の皆さんがいます。来館を歓迎します。

(きんじょう あきお：理学部教授 物理化学)

参考文献：IDE - 現代の高等教育 No.375

1996年4月号 民主教育協会発行



CD-ROM情報検索システムの使用法(6)

— 医学中央雑誌 CD-ROM版 —

今回は、MEDLINEと並んで基本的な医学関係文献データベースとしてよく利用される「医学中央雑誌CD-ROM版」を取り上げます。

I. 「医学中央雑誌」とは

医学中央雑誌とは、明治36年に創刊、現在まで継続されており「医学中央雑誌刊行会が国内の医学、歯学、薬学、及びその関連領域の定期刊行物を網羅的に収集、その中から年間約20万件の文献を採択し、キーワード・抄録付与等の編集作業を行って発行している“抄録・索引誌”」（医学中央雑誌CD-ROM版マニュアル改訂第2版1995より引用）として、まさに日本の医学文献を調査する上で欠かすことのできない情報源となっています。

検索端末から利用できる**医学中央雑誌CD-ROM版（以下医中誌CD）**は1987年版より発行されていて、琉球大学でもリリースされているCD-ROM版の全てが図書館内の端末から利用できるようになっています。収録タイトルは約2,300誌、収録範囲は雑誌論文だけでなく学会発表抄録の収録も行い、抄録の付与率は全文献に対して17～18%、原著論文に対して約75%になっています（1997.4現在）。データは毎月更新されています。

II. 検索の基本的な流れ

1. 医中誌CDを起動させると、「ホーム画面」が現れます。この画面は検索を行ったり、また様々に機能設定を行うための基本的な画面です。
2. 基本的な検索の進め方
 - ① 最初に以下のうち1つの項目について検索を行います。どの項目で検索をするか、マウスで画面下の該当する項目のボタンクリックをして指定し条件を入力します。
 - ・キーワード（漢字検索及びカナ検索が可能）
 - ・シソーラス（シソーラスとは、文献のテーマを端的に表現しているキーワード）
 - ・分類コード（1996年以降の文献調査では利用できないので注意）
 - ・著者名（カナ検索、漢字検索とも可能）
 - ・所属機関名（筆頭著者について検索可能）
 - ・掲載誌名（欧文表記の場合は、綴りをそのままアルファベットで入力）
 - ・文献番号（冊子体の「医学中央雑誌」に掲載されているすべての記事につけられた通し番号）
 - ・履歴検索（検索履歴を利用して新たに検索をします。これを利用すれば同じ条件を何度も入力する手間が省けます）
 - ② 条件を入力したら、条件入力域の隣にある検索ボタンをクリックして**検索を実行**する。
 - ③ 画面に検索結果の件数が表示されたら、必要に応じて**絞り込み検索**を行うか**検索結果の出力**（画面下の文献表示ボタンをクリック）を行う。検索結果表示画面からホーム画面に戻は、画面下のホーム画面ボタンをクリックする。このように、基本的な検索操作は①～③を繰り返し行います。
 - ④ 医中誌CD検索を終了するには、画面下の終了ボタンをクリックします。

Ⅲ. 実際の検索方法

1. 検索語の決定

検索語とは、検索をするときに「手がかり」となる言葉のことです。キーワードと言うときもあります。検索項目毎に適切な検索語を選択するということが、効率の良い、漏れの少ない検索につながります。

① 検索語の末尾に「&」を付けると**前方一致検索**を行います。これは「検索語とする文字列中で、&の直前の文字までは一致していて、&以降はどの文字がきてもかまわず検索結果として扱われます」という意味です。

例：検索語「健康&」とすると「健康管理」や「健康障害」など、最初の文字が「健康」であれば、全て検索される。

② 適切な検索語を選択できない場合、最初の何文字かを入力したあとに**検索語一覧**ボタンをクリックすると、入力された文字までが一致した検索語の一覧が表示され、その中から選択（複数選択可）して検索できます。①の応用ですが、思いもよらなかった検索語が見いだせるので便利です。

③ **履歴検索**は、一度検索した結果（履歴番号で入力）を後の検索でも再利用して検索の効率化を図るということができます。履歴検索ボタンをクリックし入力域に履歴番号だけ、もしくは履歴番号と**演算子**を入力して検索を実行します。この検索では、全て半角文字を使用します。

例：1番目に検索した結果は1と入力します。また、医中誌CDにおける演算子とは+、*、#の3種類の記号のことです。

A+B → AまたはB

A*B → AかつB

A#B → Aの中でBを除いたもの

2. 絞り込み検索

絞り込み検索は、最新の検索結果に対して絞り込みを行う方法です。検索絞り込みの要件には以下のものがあります。

- ① チェックタグ（実験動物等の種類、年齢などで絞り込む）
- ② 副標目（どのような見地で書かれた文献かで絞り込む）
- ③ 記事区分（原著論文か会議録かなどで絞り込む）
- ④ 言語（何語で書かれた論文かで絞り込む）
- ⑤ 収録誌年・巻号
- ⑥ 本誌（医中誌）年号
- ⑦ 抄録有無

3. 検索結果の出力

検索結果の画面表示をするためには、ホーム画面下の**文献表示ボタン**を押します。表示されるのは、最新の検索結果です。前に検索した結果を表示するためには、履歴検索で履歴番号を入力して検索実行をし、最新の検索としておきます。表示形式はタイトルのみ、書誌項目（抄録なし）、全項目（抄録含む）の3種類で、表示画面下の切り替えボタンで切り替えます。

① 印刷

印刷は**印刷ボタン**を押して、印刷範囲指定や出力形式の選択を行ってから実行します。この時、印刷品質は**簡易印刷**を指定してください。

② ダウンロード

ダウンロードとは、検索結果をフロッピーディスクなどに保存することです。印刷するより時間がかからず、また自分の好きなエディタ（ワープロソフトなど）を使って検索

結果を整理したり好きな形で印刷し直すことも可能になりますので、検索結果はダウンロードすることをお勧めします。操作方法は、**ダウンロードボタン**を押してファイル名など指定を終了してから**OKボタン**を押すことにより実行されます。

IV. ディスクの交換

医中誌CDは、複数年に渡って一度に検索することはできません。複数年で同じ検索を繰り返したい時は、ディスク交換時の**履歴の再利用機能**を利用するか、**履歴の保存**をフロッピーディスク上で行って、履歴を再利用します。

V. その他 (ライブラリー・ワークショップ・プログラムを利用しましょう!!)

通常はここで紹介した検索がマスターできれば大体は用が足りますので、まず最初は慣れるために上のⅡ、Ⅲを実際に繰り返し練習してみてください。少し慣れてきたら、この検索方法以外に、**シソーラス**を利用した検索や**履歴の上手な利用法**など便利な検索技法がありますので、図書館内で定期的に行われている「**ライブラリー・ワークショップ・プログラム**」の中の「**レポート・論文作成のための電子メディア活用講座**」で詳しく話していますので、是非ご参加ください。
(電子情報係)

JOIS 講習会を開催

附属図書館は、2月26日JICST(科学技術振興事業団)が提供しているJOIS(JICSTオンライン情報サービス)の利用法の講習会を開催しました。JICST九州支社が沖縄でのJOIS説明会を行うついでに、特に琉球大学図書館職員を対象に、館内職員研修の一環として開催をお願いして行ったものです。図書館2階、情報検索コーナーで行われた講習会には約20名の職員が参加し、自分でコマンドを指定して検索するTelnet版での検索方法を体験しました。

なお、附属図書館は外部データベースの情報検索サービスを代行検索で行っており、JOISをはじめ、DIALOG、NACSIS-IRが利用できます。ただし、校費だけの利用となっております。

※JOISとは、科学技術に関する文献情報や研究テーマ情報、新聞記事情報を欲しい方のために、直接データベースにアクセスして、3,000万件を越すデータの中から直ちに必要な情報の所在を捜し出すサービスです。(電子情報係)



ライブラリー・ワークショップ・プログラム

日程の変更など最新情報は
ホームページ <http://lib1.lib.u-ryukyu.ac.jp/> で確認!

参加申し込み

附属図書館電子情報係(図書館本館3階 内線:千原8167、2207)
資料や端末の用意があるため、参加申し込みを行ってください。

大学生活に欠かせない「図書館」。その図書館の「上手な」使い方を知っていると、学生のみならず、単位取得のためというだけにとどまらず、卒業研究や就職情報の収集にも役立ちますし、また教官の先生方に対しては、文献調査や研究業績評価のための資料を提供する情報センターとして、また授業内容の教材として利用していただけます。

このワークショップは、大学に所属する全ての方に、図書館の機能を十分に活用してもらおうということを基本のコンセプトとして、下記のような4つの講座から構成されています。是非ご参加ください。開催時間やスケジュールについては、図書館ホームページで最新情報(変更・中止を含む)をご確認ください。

★ 図書館ツアー

場所:附属図書館本館(千原)2階 視聴覚室

内容:いつも同じ書架に行って資料を探しているあなた、本当に必要なものとめぐり合っていますか?他の図書館の資料は使えない、手続きが面倒とあきらめてしまいませんか?このツアーは、あなたが必要な資料に効率よくアクセスできるよう、あなたの利用を待っている資料群を紹介し、また以外と簡単に他の図書館の資料も利用できますのでその方法もお教えします。

★ 図書館利用法

場所:附属図書館本館(千原)2階 視聴覚室

内容:情報を得るためのツールはコンピュータだけではありません。図書館のレファレンスコレクション(参考資料群)を利用すると、かなり古い過去にさかのぼって文献を検索したり、テーマの周辺領域を拾い読みすることができるのはプリントされた資料ならではの技です。その他、レファレンスコレクションに関する知識や利用法についてお教えします。

★ レポート・論文作成のための電子メディア活用講座

場所:附属図書館本館(千原)2階 目録検索コーナー

医学部分館 1階 目録検索コーナー

内容:附属図書館がサービスしているOPAC(蔵書検索システム)や、Web-catサービス(インターネットで日本各地の大学図書館等の所蔵情報がわかります) 論文単位で情報検索ができるCD-ROMデータベース(下参照)等の電子メディアを駆使して、情報を効率よく入手する方法をお教えします。

＝CD-ROMデータベース＝

人文・社会系

- Art & Humanity Science Citation Index
- Social Science Citation Index
- ABI/Inform (経済・経営系)

学際領域、及び複数分野

- PsycLIT (心理学)
- 雑誌記事索引 (主に日本語文献、全分野)
- Current Contents (社会・自然・医学・技術系)

図書出版情報

- Global Books in Print

自然・医学・技術系

- Science Citation Index
- MEDLINE (医学関連)
- Biological Abstracts
- Biological Abstracts/RRM
- 医学中央雑誌
- Chemical Abstracts
- INSPEC (工学関連)

★ 図書館における電子メディア利用のためのパソコン基礎講座

場所：附属図書館本館（千原）2階 目録検索コーナー

内容：この講座は、コンピュータはほとんど利用したことがない「機械は苦手」という方のために開講しています。図書館の電子メディアを利用するためのごく基礎的な知識を身につけることを目的とし、この講座の姉妹編である「レポート・論文作成のための電子メディア活用講座」への基礎固めとしてもご活用ください。

<授業を担当なさる先生方へお願い>

図書館内での定期的なワークショップの他に、授業（特に共通教育科目等）やゼミでこのワークショップを取り入れていただくことも可能です。開催時間や内容はご要望に応じてコーディネートします。「授業の時間に合わせて開催してほしい」、「自分の分野でふさわしいワークショップはどれか」など、係までお気軽にご相談ください。 (電子情報係)



4月1日(水) 荒武者キートン 67分	①13:30～	
4月8日(水) キートンの恋愛三代記 47分	①15:00～	②17:30～
4月15日(水) キートンの大学生 66分	①15:00～	②17:30～
4月22日(水) キートンの蒸気船 69分	①15:00～	②17:30～
5月6日(水) グランド・ホテル 112分	①15:00～	②17:30～
5月13日(水) キング・コング 100分	①15:00～	②17:30～
5月20日(水) ドンQ 110分	①15:00～	②17:30～
5月27日(水) 愚かなる妻 108分	①15:00～	②17:30～
6月3日(水) 四十二番街 100分	①15:00～	②17:30～
6月10日(水) 会議は踊る 97分	①15:00～	②17:30～
6月17日(水) 三文オペラ 108分	①15:00～	②17:30～
6月24日(水) ウィンダミアの扇 118分	①15:00～	②17:30～ (資料サービス係)

検索用端末機の増設とCD-ROMデータベースの追加について

前号の「びぶりお」でもお知らせしたとおり、図書館内の検索用端末が15台増設されました。この端末では、図書館ホームページを使って附属図書館蔵書目録検索システム（OPAC）や全国大学等総合目録システム（Web-cat）などを利用できますし、CD-ROMデータベースを使って文献調査も行えます。これまで端末台数が不足しているため順番待ちの方も見受けられましたが、今後はそれも緩和されるものと期待されます。

また、ネットワークで提供しているCD-ROMデータベースに関しては、これまでの12タイトル（ただし医学中央雑誌CD-ROM版は図書館内のみ利用可）に以下の2タイトルが加わって、合計14タイトルとなりました。

・CA on CD (Chemical AbstractsのCD-ROM版) 1998年版～

化学を中心とする科学技術分野の雑誌論文、特許、技術レポート、学位論文、学会会議録、書籍などの情報が収録されています。収録情報の原資料は50以上の言語で書かれているが、CA on CDではすべて英語で収録されています。

・INSPEC Ondisc 1995年版～

物理学、電子工学、コンピュータサイエンス関係の雑誌論文、会議録、図書、報告書、学位論文の情報を検索できます。原資料が英語以外でも、英語で検索できます。

これらのCD-ROMデータベースは他の12タイトルと同様、新しく整備・増設された検索用端末で利用できますし、「ライブラリー・ワークショップ・プログラム」（本誌参照）で利用のための講習会を行います。検索用端末の増設により、これまでよりぐっと講習会が身近に感じられるようになること受け合いです。

（電子情報係）

お知らせ

- ◎ 春季休業等に伴う開館時間の短縮 4月5日（日）まで
 開館時間 月曜日～金曜日 8:30～17:00
 土曜日・日曜日 休館

- ◎ 夜間開館の開始 4月6日（月）から
 開館時間 月曜日～金曜日 8:30～22:00
 土曜日・日曜日 13:00～17:00

- ◎ 休館（中央館・医学部分館）
 ・4月29日（水） みどりの日
 ・5月3日（日） 憲法記念日 ～ 5日（火） こどもの日
 ・5月22日（木） 開学記念日

※ 本館では当月、翌月の開館案内（カレンダー）を
 入口及び掲示板に掲示しています。ご注意ください。



消防訓練の実施

図書館では、3月6日（金）に消防訓練を沖縄県東部消防組合消防本部の協力を得て実施した。訓練は図書館長を始め職員全員が参加、また教職員・学生等の図書館利用者にも協力をお願いし、午後2時図書館1階集密書庫から出火したとの想定で、消防署への通報、利用者の避難誘導、初期消火の訓練を行った。図書館で消防訓練を実施するのは今回が初めてであり、参加者は訓練の始まる前は緊張した面持ちで待機していたが、訓練開始とともにサイレンの音、消防車の出動など本番さながらの状況の中、それぞれの任務を迅速にこなしていた。

ひとつおりの訓練終了後、図書館北側の駐車場で、消防署員の指導で消火器の操作訓練を行っ

た。消火器の操作をするのは初めての者がほとんどであり、なかなか上手には消火ができず、あらためて訓練の重要性を認識した思いであった。終了後、消防署員より講評があり午後3時全て終了した。

今回の消防訓練は、平成7年1月の阪神淡路大震災を契機に防災対策が叫ばれ、図書館でも防災訓練、特に火災に対する訓練の必要性に鑑み、ようやく実現したもので、大学においては附属病院に次いで人の集まる場所でもあり、これからも毎年実施して行く計画である。

なお、この消防訓練にご協力いただいた教職員・学生等の皆様には、改めてお礼を申し上げる次第です。（情報サービス課長）



（館長も消火器の操作訓練に参加）



新入生のための図書館ツアー（中央館）

附属図書館では、新年度を迎え、新入生のために図書館利用法をお知らせし、また、館内の施設や設備を案内します。更に、その期間中はビデオ「図書館の達人1巻～3巻（日本図書館協会企画監修）」を上映しますので、大いにご参加下さい。

開催日時は 4月20日（月）～24日（金）の各日
10：10～10：30 と16：30～16：50の時間帯に行います。

集合場所：附属図書館 玄関

ビデオ上映時間：10：30～11：30

ビデオ上映場所：附属図書館 2階 AV視聴室（カウンター向側）（参考調査係）

琉球大学附属図書館のあゆみ -シリーズ②-

豊平朝美

発展期（1960年代①）

最初の本造瓦葺き建附属図書館建設から10年、志喜屋記念図書館が新築されて5年が経過した1960年代は、図書館の整備・充実期に入り、雑誌閲覧室、郷土資料室の設置によって両資料の活用が促進された。さらにロックフェラー財団やアジア財団の援助により人材育成や資料の収集など積極的に行われた。

予算面から見ると図書費は下記の通りである。

1965年度当時、当館の図書費は22,000ドル（792万円）で国立大学平均3,882万円でかなりの格差があったが、1966年度から日本政府による援助（略称：日本援助）が開始され年間20,000ドル（720万円）が配分された。さらに、1970年度は保健学部用として6,250（225万円）ドルが追加され日政援助は総額26,250（945万円）ドルに増額した。

琉球政府の予算（琉政予算）では十分な資料費の手当てが出来なかったが、それでも日政援助により図書は整備は大分緩和されてきた。琉大の資料費は当時の本土の国立大学の単科大学（D規模大学）の平均値位で琉大の規模（B規模大学：5-7学部）からすると昭和45年度を例にとっても琉大は2,376万円、国立B規模大

学平均7,621万円で国立C規模大学（2-4学部）でさえ3,811万円でかなりの格差があったことは否めない。

（注、国立大学の規模別資料費は文部省大学図書館実態調査結果報告による）

1951年米国教育審議会と米国陸軍省の援助により米国ミシガン州立大学から教授団が本学に

勤務して教育行政や研究活動等に対して行った援助や助言も1968年に終了、18年間にわたる教育交流プログラムが終了した。米国統治下の沖縄の本土復帰を目前にして、1969年琉球大学国立大学化問題等審議会から琉球政府主席に対し「琉球大学の国立移行について」建議され、本学も国立大学への準備を進めることになっ

た。（琉球大学附属図書館30周年略年表より一部参照）

◎ロックフェラー財団による資料購入援助と人材養成

1961年図書購入として200ドル（72,000円）の範囲でロックフェラー財団の援助資金で図書購入を計画している。その選択基準として①職員研修用資料として②重複はさける③通常予算で



創立当初の本造瓦葺きの附属図書館
（琉球大学30年誌より）

年度	予算額	年度	予算額	国立D規模大学
1961年度	18,000ドル（648万円）	1966年度	40,000ドル（1,440万円）	1,516万円
1962年度	17,000ドル（612万円）	1967年度	60,000ドル（2,160万円）	1,770 〆
1963年度	17,000ドル（612万円）	1968年度	70,000ドル（2,520万円）	1,950 〆
1964年度	20,000ドル（720万円）	1969年度	78,000ドル（2,808万円）	2,215 〆
1965年度	22,000ドル（792万円）	1970年度	66,000ドル（2,376万円）	2,372 〆

買えない高価で貴重な資料を購入する④可能な限り複本を揃えるとしている。

その他、この財団援助で様々な図書館職員の人材養成が行われた。1960年4月1日より1961年3月31日まで1ヶ年山城篤博運用係長が慶応義塾大学へ、大城重雄司書が1961年9月30日まで米国イリノイ大学へ各々留学した。翌年1961年4月1日より9月30日まで山田勉司書、新井裕丈司書補が、慶応義塾大学へ研修、1961年10月1日より新城安善、宮島恵曠司書補が、又、平良恵仁事務長が10月6日の広島での第8回全国国立大学図書館館長会議にオブザーバー（ミシガン大学派遣教授団ベンコ博士も当時の第3代仲宗根政善館長の代理として参加）として出席した後、1962年3月31日まで慶応義塾大学へ各々研修を受けた。1962年4月1日より1963年3月31日まで1ヶ年間仲西盛秀書記（後に第2代医学部分館図書館専門員）が慶応義塾大学へ、1962年6月石川清治書記（後に教育学部教授）が同財団援助で Western Michigan 大学へ研修留学、1963年6月に1964年2月15日まで期間更新している。仲西盛秀書記は帰任後、研修の成果として郷土資料分類目録を作成しており、

今日に至るまで当館の郷土資料分類法として使用されている。石川清治書記は米国留学から帰任後1964年3月に講師として職員研修を行っており、その後は1968年1月1日に教育学部講師へ転出するまで毎年新生のオリエンテーションを担当している。石川氏は教育学部転出後、学校図書館学

の専任講師となった。1963年4月1日より1964年3月31日まで野原敏弘書記（後に閲覧係長）が慶応義塾大学へ研修。1964年12月16日にロックフェラー財団援助により同財団の援助の終了が報告された。

◎図書館職員研修

1960年の年末の12月27日に午前中はミシガン顧問教官ヘルン氏が大学図書館論を、平良事務長が図書館業務を担当して、職員研修を実施、

27日～29日まで研修の一環として図書館全員で1,500冊の図書の分類、目録の作業を行っている。

◎図書館職員実務研修会

1961年3月28日から29日までの2日間、本学図書館で県内の学校図書館関係者及び各公共図書館関係者を対象に研修会が開催された。第1日目は午前9時から午後4時まで、午前中は当館の平良恵仁氏が図書館について、ミシガン大学顧問教官ヘルン氏がレファレンスワークを、上山中学校教諭の本村恵昭氏が学校図書館を、当館の平良恵仁氏が図書館について、同じく当館の山田勉氏が分類の講義と実習、2日目も当館の宮島恵曠氏が目録の講義と実習を担当、受講者は県内大学図書館、中・高校の教諭など部外者31名を含む40名近くであった。

◎新入生オリエンテーション

1959年のオリエンテーションは3月25日の午前中は文理学部271名、午後は教育学部202名を、26日の午前中は農家政工学部160名を対象に各々3時間のオリエンテーションで、講義内容は図書分類法、図書目録法、館内見学、実習指導があり、図書分類法、図書目録法は整理係が、他は運用係が担当した。

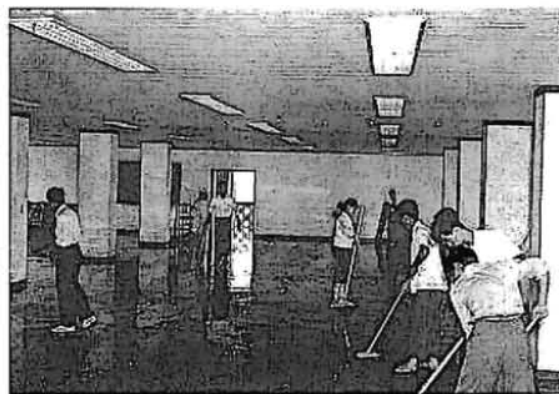
◎時間外開館

従来、平日は午後9時、土曜日は午後4時30分まで開館であったが、1965年7月12日(月)より土曜日は従来通り開館し、平日は午後10時まで延長した。この開館は同年10月末まで継続したが、11月より元の午後9時閉館に戻している。1966年1月より再び午後10時開館に

なっている。当時の夜間開館は職員1人と学生アルバイト1名で行っていた。

◎図書館台風対策

図書館1階から5階までベニア板を取り付け、張り棒で支えた。しかし近代的建物も火災被災復旧後もその影響と老朽化が進むにつれ、台風通過後は天井よりの浸水と窓際からの打ち雨で床が水浸しになり、特に4、5階はひどく職員はゴム長靴をはいてバケツで汲み出したが、こ



台風通過後の片付け（志喜屋記念図書館）

の作業は台風来襲の度日常茶飯事の出来事となり千原の新キャンパス移転まで続いた。

◎学生アルバイト

1960年4月の閲覧業務で学生アルバイトを採用、職員の昼食時及び夜間開館時のカウンター業務の補助を行っている。その他、午前2時間、午後2時間を割当て、検索、排架に当らせている。

又、1960年10月、別に大学生アルバイトを採用、図書館の1階から5階まで毎日階層を替えて清掃し、月曜日は1階を午前7時から8時30分まで、火曜日からは午後5時から7時まで2階から順序よく上階へ、最終日の金曜日は5階を割り当てた。

当時の学生アルバイトの賃金は時給13セント(46円)(ドル建て:当時の沖縄そば代1杯分)平均月額1人当たり5ドル(1,800円)弱である。琉球大学ファウンデーションによれば在学者2,000名の内44%の約800名がアルバイトをしながら辛うじて学業を続けている状況であった。

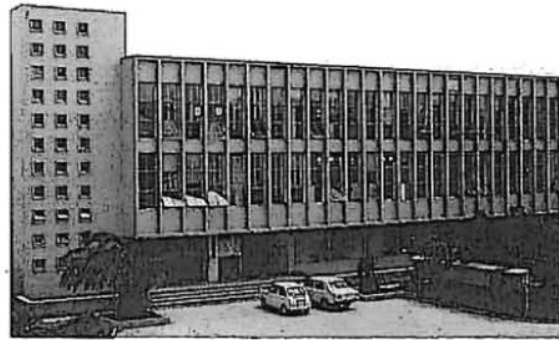
ちなみに1960年度の学生生活実態調査では1ヶ月の学資は15ドル(5,400円)で収入源は「保護者」「奨学金」「アルバイト」で15ドル~17ドルに最も集中しており、自宅からの通学者は5ドル(1,800円)~7ドル(2,520円)で学資の全額をまかなうことができるとなっている。

◎ハワイ東西文化センター図書館職員研修

ハワイ東西文化センターの松井正人氏から図書館職員研修参加勧誘があり、1967年4月から9月まで6ヶ月間、新井裕文司書が琉球大学からの初回研修者として選ばれた。1966年12月20日の松井正人氏から当館の宮城館長(第4代)への英文の書状によると図書館現職教育計画は同センターの協力と同センター技術交流部の後援で行われ参加者は6ヶ月間、図書館で指示する仕事に従事することになっていた。宿舎、日当、研修費、健康保険は技術交流部により参加者へ支給されていた。航空賃は参加者の勤務する機関の負担となっていた。これまで琉球からの参加者はUSCAR(United States of Civil

Administration of the Ryukyus 通称ユースカーと呼ばれ米国民政府の)により交通費が支給された。

1967年1月23日、同センター副館長ライト氏から米国民政府教育局宛て書状によると現職図書館職員研修は1966年に琉米文化センターの儀部守男氏を1回目の研修生に、1967年2月には那覇琉米文化会館司書島仲勝巳氏を2回目の研修生として受け入れた。新井氏の航



志喜屋記念図書館正面

空賃の負担をこの書状で民政府に依頼している。さらに図書館活動における沖縄と同センターとの文化交流は1965年に来島した松井氏が沖縄の図書館事情調査および助言によって始められ、文化交流の一環としていることが記されている。

1967年6月24日の新井氏から宮城館長宛の手紙では図書館での研修内容は月曜日から金曜日まで午後は特殊コレクションの書誌作成があり、新井氏はその書誌の著者、書名のローマナイズや読み方を確認する作業を行い、月・水の午前は逐次刊行物の選択を、火・木・金の午前は逐次刊行物の分類・目録を行った。研修期間中に図書館学講義の受講や他の図書館見学もあるが、研修の大半は書誌作成で、あとは個々の研修者が計画したスケジュールに従って、行ったようである。又、同センターはこの他、1964年に両機関に所蔵する沖縄関係資料(東西文化センター所蔵宝玲文庫、琉大所蔵伊波文庫、源七文庫等)をアジア財団の援助で複製して、資料交換を相互に行っている。

水野益継氏(現教育学部教授)によると同センターは1960年アメリカ議会協賛の法律に基づき、ハワイにおけるユニークな教育機関として、東西の文化・技術交流センター(The Center for Cultural and Technical Interchange between East & West)を目指し、ハワイ大学附属機関として設立されたようである。太平洋沿岸のアジア、オセアニア、極東諸国、アメリカ合衆国の学生らに向けて研究諸費用が支給されていた。ハワイ大学にも留学させている。1961年から1971年

にかけて沖縄からUSCAR教育局を窓口として、教育研修・技術研修・学位取得のため500人が当センターで学んだ（沖縄大百科事典より）。

◎宝玲（ホーレー）文庫について

現在本館沖縄関係閉架資料室にハワイ大学の宝玲（ホーレー）文庫マイクロフィルム複製資料の一部が保管されている。このマイクロフィルム複製資料はハワイ大学はもとより国内でも宝玲文庫の一部として法政大学沖縄文化研究所にも分散保管されている。

ハワイ大学のホーレー文庫設置のいきさつが当館所蔵の趣意書によって知ることが出来る。

〔布哇大学“沖縄文庫”設置後援趣意書〕

学界における沖縄研究紹介の三先達といわれている民俗学の柳田國男博士、国文学の折口信夫博士、民芸研究家の柳宗悦先生等がつとに“沖縄の研究は将来日本学界の注目の的になるであろう”と予言されたが、予言にたがわず、今日沖縄に関する研究は学界の諸分野に亘って隆盛を極めている。

それは沖縄がその地理的条件から日本の古い文化形態を保存しているばかりでなく、南方文化との交流関係や南洋諸邦との交易関係を探る貴重なキーとなっているからだといえる。

〔関係資料の焼失〕

ところが、過ぐる第二次世界大戦の際、沖縄は日米最後の決戦場となり、重要文化財が殆ど戦災にあい、焼失あるいは破損した。そのため、沖縄に関する文化資料といえは各地に散在しているささやかなものに至るまで重要視され、血眼になって探している現状であった。

〔布哇大学と沖縄研究〕

布哇大学に於いても沖縄文化の研究について早くから着目し、阪巻駿三博士が中心になって歴史資料の蒐集に着手していたが、今回東西文化センターの開設を契機に大学図書館に“沖縄文庫”を設置すべく、関係資料の蒐集に本格的に乗り出している。それと同時に同センターの事業の一つとして沖縄文化研究者として知られ

ている比嘉春潮、仲原善忠両先生を招聘して研究にあたらせることになり、両氏は本月22日の契約で来布することになっている。

〔ホーレー文庫について〕

阪巻博士が同センターの用務を帯び訪日中、比嘉、仲原両氏と図って、ホーレー文庫の沖縄関係資料を購入することに成功したことは布哇大学にとっても同センターにとっても、又ひろく沖縄関係者にとってもまことに倖せであった。ホーレー文庫というのは永く京都に住んでいた英国の東洋研究家フランク・ホーレー（Frank Howley）氏のコレクションで、沖縄に関する基本的文献を悉く揃えている上に、御膳本草、

大島筆記その他多くの珍本を含み、中には国史的資料も蔵し、沖縄研究については比肩すべきものが無いと定評されている貴重な資料である。ホーレー氏の死後、沖縄関係文献については他の大学からも購入申込みが多く仲々入手難だったのを、阪巻駿三博士の情熱と比嘉、仲原両氏の努力によっ

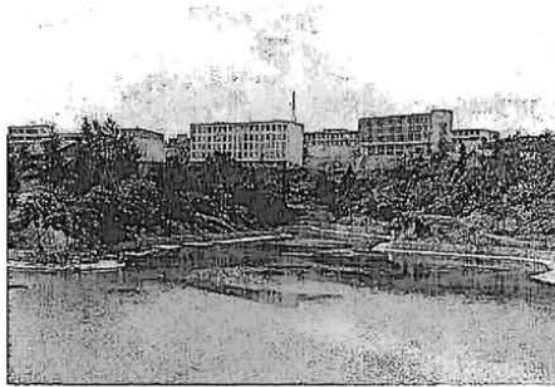
て、布哇大学が一括購入に成功したのであった。

〔文化財の分散保護〕

ホーレー文庫の如き得難い資料を海外に出すことについては相当反対の声もあり、琉球大学に保存すべしとの意見もあったようである。しかし、眞に沖縄の文化財を愛する人たちは過ぐる大戦の苦い経験にかんがみ、文化財の分散保護という見地と、沖縄文化の海外紹介という高い立場から、布哇大学の一括購入を心から歓迎したのであった。そればかりでなく、此の文庫の布哇保存は日米間の文化交流を促し、かつ布哇大学と琉球大学の関係を益々密にする紐帯の役割を果たすと考えたのであった。事実、阪巻教授と琉球大学の仲宗根教授との間でスライドによる資料の交換の約束まで出来ている。

〔購入費不足〕

ホーレー文庫の購入に就ては他の大学との競争上、布哇大学は15,000ドルしか割当られていない予算を以って、20,000ドルの取引に応じた



龍潭池より志喜屋記念図書館（右手）を望む

次第で、5,000ドルの不足額に就て布哇在住沖縄出身者へ協力をよびかけている。

〔沖縄同胞発展の記念事業たらしめよ〕

布哇は沖縄移民が最初に上陸した同胞海外発展の記念すべき土地であり、この地に沖縄文化研究の資料が一括して保存されることは誠に意義深いものであると考える。我々は阪巻教授の熱意と努力に感謝しつつ大学のこの聖業に対し※連合会を中心に物心両面から協力し、同胞発展の記念事業の一つとして子孫に遺したいものである。1961年4月9日（記述は原文を若干修正加筆） 注※ハワイ沖縄県人連合会

以上が趣意書の全文であるが、ハワイ大学にホーレー文庫が納まるまでの苦勞と経過がわかり、当時のハワイにおいても沖縄関係資料の収集の重要性が認識されていたことがわかる。阪巻教授はハワイで英文対訳付きの琉球関係文献目録（琉球書誌稿）を1963年編纂している。

1995年に沖縄県立図書館によって編集・発行されたハワイ大学宝玲文庫複製資料目録によって所蔵機関とその内容を知ることが出来る。

◎アジア財団

同財団は1964年に創立されたアメリカ合衆国の対アジア援助のための公益法人団体である（沖縄大百科事典より）。1959年以来本学だけでなく沖縄の大学等教育機関ならびに文化・学術団体や個人に対しても援助を行ってきた。財団はアメリカ合衆国のカリフォルニア州サンフランシスコに本部をおき、日本は東京に本部があり、当館はこの東京本部を窓口にして様々な援助を受けてきた。当館に対する援助は人材養成、資料費の援助、寄贈図書送付など1960年アジア財団による寄贈図書送付を開始して以来、本土復帰後もアジア財団の日米友好基金でアメリカ研究図書の充実のためその援助は継続された。

この財団の費用で1961年220（79,200円）ドルの援助を受けて複製で入手した東京大学資料編纂所蔵の沖縄関係資料がある。1964年11月12日に当館所蔵の伊波文庫及びその他50冊2,754枚の複写資料費の援助を受け、ハワイ大学東西文化センター所蔵のホーレー文庫86冊6,479枚の複写資料との交換が行われた。複写資料はアジア財団援助金と琉大予算で賄われた。

その他の援助として、当館所蔵の沖縄関係資

料の複製作業がある。1964年に伊波文庫、源七文庫、宮良殿内文庫等の複製、1965年に沖縄県立図書館所蔵の東恩納文庫より8点複製している。

◎仲原文庫

同アジア財団による購入資料の援助として仲原文庫があげられる。仲原文庫は現在本館沖縄資料室（閉架）に保管され、その内容は一般図書と沖縄関係資料がある。仲原善忠は沖縄県島尻郡仲里村の出身で旧家の長男として明治12年に生まれ、広島高等師範学校卒業後静岡師範等の教諭歴任後明治大学講師をし、昭和15年、実弟善秀氏と共同で「久米島史話」を刊行、終戦を境にして沖縄研究に没頭した。琉球歴史とオモロ研究を軸に民俗文学、言語学等に研究を拡げると共に「おもろ新釈」を出版、独創的かつ科学的な見解で傾注され、おもろ研究史上画期的な著述で、その後「校本おもろさうし」「おもろさうし辞典、索引」と研究業績を記し、1964年に他界した（中山盛茂著琉球史辞典）。

その蔵書群は仲原善忠氏の死後、その遺志に従い、東京世田谷に在住の仲原信夫人が郷里沖縄の学徒、研究者に役立てたいということから、1966年夫人より当館へ譲渡の申し出があり実現したことによる。1966年6月20日の夫人より宮城館長宛ての書状によると、あちらこちらから譲渡の申込みがあり、分散する恐れがあったこと、蔵書には夫人にとっては一冊一冊亡夫の息がかかっており分散ということは考えたくなかったこと、当館と（譲渡の）約束が成立して、安心したことが記されている。さらに夫人はこうも述べている。（蔵書を手放すことは）手塩にかけて育てた娘が年頃になってよい相手を見つけられるために懸命になり、相手が決まり、いよいよ式が決まると掌中の宝をとられるような悲しさになるような心境に例えており、書籍がある限り、夫がまだ生きているような錯覚を起こす時があることを記している。当館への譲渡の条件の一つとして「一括保管」を夫人は要望しており琉大側でも①「仲原文庫」と表示して永久に保管する、②一括保管する、③未稿の原稿の出版に際して出版に支障をきたさないように考慮する旨確約している。

1967年の本館図書館年報によると、故仲原善忠氏が生前収集した蔵書2,372冊を8,000ドル

(288万円)で購入し、内、2,000ドルはアジア財団の援助で、残り6,000ドルは琉球大学の支出となっている。

◎南方同胞援護会による沖縄関係資料の寄贈

同会は略称で南援とも言はれ、1964年に受け入れた資料は折口信夫全集や琉球木版で印刷された「大学」「論語」等道徳書がある。南援は1956年(昭和31)に設立、戦後、沖縄で起きる諸問題を解決するため沖縄の施政権を保持していたアメリカとの間で日本政府に替わって設立された財団法人である。同会の事務所は当初、東京霞が関の外務省分室に置いていたが、1967年(昭和32年)に陣容整備と事業拡大に伴い、東京都港区新橋に移転した。初代会長に洪沢敬三氏、副会長に淵上房太郎氏、事務局長に吉田嗣延氏が就任した。南方同胞援護会は南方地域諸問題を解決するための必要な調査、研究及び啓蒙宣伝を行うとともに、この地域の住民の福祉の増進をはかるための援護事業を目的に設立された。軍用地問題等対米折衝の他に各種福祉施設の設立、遺児育英事業、図書・教科書贈与等様々な援護活動を行ってきたが、沖縄の本土復帰とともに昭和48年3月31日に解散し、財団法人沖縄協会に引きつがれた。

◎附属図書館報「びぶりお」の創刊

1967年の図書館年報によると、1958年4月から1959年3月まで「U.R.L.レビュー」を第3号まで発行、1962年5月から「図書館ニュース」を創刊し第36号まで発行、1967年5月から図書館報「びぶりお」を創刊、現在に至っている。

◎琉球郷土資料の調査

1966年6月新城安善参考司書は八重山石垣市を中心に資料調査をして、喜舎場氏所蔵の資料を借用して、複写した。同氏は1967年2月下旬に八重山石垣、久米島具志川、仲里両村に資料調査に赴き、八重山関係資料複写のための借用をしている。久米島では仲村家から仲村親雲上仕明帳(なかむら ペーチン しあけちょう)等寄贈を受けている。この調査で新城司書は*「球陽」の筆写本を発見している。1967年12月4日より12日まで宮古、八重山を訪問、1968年6月4日から8日まで本島北部の国頭地区の名護、本部、羽地など個人宅、文化財保護委員会民俗調査委員、役所等訪問資料調査、町誌の編

纂の状況を確認している。1968年10月9日から16日まで八重山竹富町、波照島を訪問、明治時代の県令達書、個人所有の家譜など調査している。(図書館年報より)

(注:「球陽」(きゅうよう)とは中山王(琉球国王のこと)尚敬王(1713-1751)時代に久米村(中国系住民の移住地で那覇市久米町周辺)の侍講であった史学者伊佐川裕実(中国名:鄭秉哲:ていへいてつ)に命じて編纂した琉球の歴史記録。)

新城安善氏は1965年琉球大学所蔵の郷土資料目録改訂増補版を仲間の職員と共に作成し、その中心的役割を果たした。目録は図書、雑誌のタイトルだけでなく目次、論文名、執筆者等を詳細に記載しており利用の便を図っている。1978年、1984年版と退職までに精力的に郷土資料目録作成に携わり、その業績により昭和61年に当館は国立大学図書館協議会賞を受賞している。

◎沖縄図書館協会の設立

1962年7月14日、図書館事業の発展を目的に各地区図書館協会を統合した沖縄図書館協会が設立され、これまでの地区図書館協会は、南部支部、中部支部、北部支部、宮古支部、八重山支部の5つの支部組織として活動することになり、事務局を那覇琉米文化会館(泊の崇元寺跡)におき上記の目的達成のため研修、資料の収集、交換、研究調査、連絡協力、専門部活動の事業を行うことになった。琉大図書館はこれまで南部地区図書館協会に所属して、当初は団体会員ではあったが、その後個人会員として加入することになった。沖縄図書館協会設立後、会長に阿波根直英氏、副会長に政府立図書館長嘉手納リッター女史、石川文化会館長伊波氏が選出された。

南部地区図書館協会は1967年に民政府広報局文化事業部サムエル・N・向田博士の提唱で儀保琉米文化会館司書長、松島那覇琉米文化会館司書長(後に琉大閲覧係長)、在沖陸軍図書館主任司書マリイェ・グッディ女史等関係者が集まり、沖縄の図書館関係者の資質の育成と向上及び図書館の啓蒙活動を目標に、図書館協会の設立の話合いがもたれ、1958年3月19日に那覇琉米文化会館で「南部地区図書館協会」の設立総会が開催された。設立の趣旨は①アメリカの図

書館と沖縄の図書館員との協力連携、②大学図書館・学校図書館・地域図書館・文化会館等の発展と各職員の資質向上、③読書週間・図書館週間への参加、④講習会・研究会・軍図書館の見学、⑤図書館相互貸借制度の実施等である。設立当初は各文化会館を中心にした上記5つの地区図書館協議会の活動があった。

沖縄図書館史研究会（会長：山田勉）の「沖縄の図書館沿革小史」より一部参照

1962年南部地区図書館協会事業報告によると「研究会」は主として学校、公共、大学の図書館職員を対象に、「講習会」は主として公民館図書部員を対象に、講師に琉大の山田勉、大城重雄司書、那覇文化会館の島仲勝巳氏を迎えて各々2時間程度「図書の歴史」「分類」などの講演を行っている。研究会には40名、講習会は20名程度が参加している。「読書・図書館週間行事」は毎年11月にラジオ座談会、米人中・高校の学校図書館や軍図書館見等を実施している。その他、琉大、立法院、那覇文化会館、学校図書館の図書館関係者等の研究会員で「図書館法」について討議し、今後の沖縄の図書館法

について意見を交換している。

*追記

前号に掲載した志喜屋記念図書館建設のため宝くじを発行した際に使用した宣伝用ポスターの作者は美術教官の安次富長昭先生（当時学生）とあるのは誤りで、安次富先生からの連絡によればポスターを作成した時は卒業したばかりだったという。安次富先生は1954年（昭和29年）3月に、琉球大学の一期生として琉大の応用学芸部芸術科を卒業して4月に米国民政府に採用され、情報教育部展示課（当時、首里城跡にあった琉大キャンパス内のラジオ放送局KSARの2階にあり、道路を挟んで志喜屋記念図書館の向い側に位置する）の監督管（主任デザイナー）として配属され、最初に手掛けた仕事が宝くじの宣伝用ポスターだった。ポスターはすべて手作りでシルクスクリーン印刷で1000枚印刷され、全琉の文化会館を通して各行政機関に掲示したという。

なお、志喜屋記念図書館の建設に助力したファウンデーション理事長はディフェンダーファー氏の誤りでしたので訂正します。 つづく

（とよひらともみ：図書館専門員）

本学紀要類紹介：

理学部



「沖縄島嶼研究」

(Island Studies in Okinawa)

発行者：イリオモテヤマネコ生態実験研究室
(琉球大学理学部海洋自然科学科)

1983年創刊 B5版 年1回発行

ISSN：0289-7857

琉球大学生物学科では池原貞雄教授（琉球大学名誉教授）を中心として長年にわたってイリオモテヤマネコに関する様々な研究が行われてきた。その研究成果を収録した本誌が創刊されたのは池原教授が退官された翌年のことである。

イリオモテヤマネコの研究はその後イリオモテヤマネコ生態実験研究室で続けられており、本誌は同研究室が行った調査・研究の成果を公

表することを主な目的としている。

しかし、特に投稿資格は設けず外部からの投稿も受け付けている。対象としているのは、西表島やイリオモテヤマネコに限らず、琉球列島及びその周辺域、または広く島嶼を舞台とした生物の生態、分類、進化、保全などに関する研究の報告である。

1983年の創刊から昨年までに15号まで発行され、国内の大学、研究機関、関連行政機関、研究者等へ送付されている。

本誌の創刊の経緯から、4号まではすべてイリオモテヤマネコに関する論文であったが、次第に他の動植物や西表島以外の島嶼に関する研究報告も増えてきている。

これまで掲載された論文は、イリオモテヤマネコを扱ったものが67%、植物を扱ったものが11%、次いで鳥類や両生爬虫類に関する報告が多い。

11号は長年にわたってイリオモテヤマネコ生態実験研究室をご指導いただいた理学部生物学

科島袋敬一教授、教養部屋良和子教授の退官を記念した号とした。

今後は論文、報告ばかりでなく、琉球列島の自然に関する情報交換の場としての機能ももたせていきたいと考えている。

(編集委員：伊澤雅子)

本学紀要類紹介：



理学部

『RYUKYU MATHEMATICAL JOURNAL』

発行者：琉球大学理学部数理科学教室

1988年創刊 B 5 版 年刊

ISSN : 1344-008X

本誌は、琉球大学理学部紀要の分冊、数学編として、昭和63年度に第1巻が創刊され、以後毎年1回発行されている。今年度には第10巻が発行される予定である。

投稿原稿の著者は、原則として、本大学教官および本大学院学生である。但し、当教官外の共同研究者を含むことは差し支えない。投稿は、研究論文、論説、速報のいずれかとし、未発表のものに限る。但し、口頭発表のものはこの限りではない。

編集および出版に関する事務については、本大学全数学教官（理学部、教育学部の数学系教官）より選出された3名によって編集委員会を組織し、この編集委員会の責任において行っている。

本誌は、写真印刷とし、原稿は、欧文で、投稿規程とは別に定めたフォーマットに従って、原則として、コンピュータ（AMS-TEX, AMS-LATEX等）で作成することになっている。

本誌の発行部数は、200部で、国内および外国の大学、研究機関等に送付されている。

各巻で掲載された研究論文数は、第1巻5編、第2巻4編、第3巻5編、第4巻6編、第5巻6編、第6巻6編、第7巻7編、第8巻6編、第9巻4編である。

尚、最新版第9巻（1996年）には、次の研究論文が掲載されている。

A. HIGA and H. MAEHARA

An intuitive proof of Jordan-Brower separation theorem in 3-space (1-4).

T. MAEDA

Birational maps of standard projective plane bundles over algebraic surfaces (5-35).

S. MATSUMOTO

Fluctuations in spacetime and localization of the wave function (37-52).

T. NISHISHIRAHO

Korovkin type approximation closures for vector-valued functions (53-69).

(理学部編集委員：西白保敏彦)

本学紀要類紹介：



医学部

『琉球大学医学部紀要』

(Acta Medica Ryukyus)

発行者：琉球大学医学部

1991年創刊 A 4 版 年1回発行

ISSN : 1344-0144

医学部の研究機関誌は、医学部の創設に伴い変遷がみられている。1978年から1982年までは、「琉球大学保健学医学雑誌」が発行されていたが、1983年からは「琉球大学医学会雑誌」に変更された。

さらに、1991年からは、任意の学術団体としての「琉球医学会」の設立に伴い、その学会誌として「琉球医学会誌」が発行された。

この「琉球医学会誌」の発行に伴い、学会誌とは別に医学部の公的学術情報雑誌として、「琉球大学医学部紀要」が1991年に創刊され、現在に至っている。

本誌は、医学部医学科、保健学科、医学部附属共同利用施設に所属する教官・研究者の研究内容の紹介としての「研究課題の概要」と、年間学術業績を収載するものである。「研究課題の概要」、「原著」、「総説」、「著書」、「報告」、「その他」の分類に従って、各講座、教室、施設ごとに記載され、業績は一般的な学術論文の参考文献記載例に従って、著者名、論文題名、雑誌名、巻、号、頁が記載されている。

さらには、医学部の受入研究費による研究課題が本誌の巻末に収載されている。前年度1年分の医学部の全業績が収載されており、医学部の学術研究活動の自己評価、内部評価、外部評価の資料としても利用すべく編集されている。

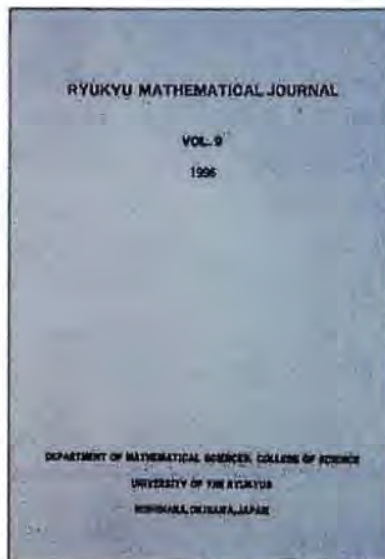
また、本学部学生の卒業時での大学院入学の専攻科の決定や、入局講座の選択の際の参考資料にもなり得るものとして、編集方針が立てられている。

1996年発行の紀要からは、その内容が「琉球大学図書館ホームページ」に掲載され、電子情報ネットワークにも接続している。本誌の冊子は、全国の医歯薬系大学の図書館、公立図書館に送付されている。出版費用は、学部共通経費をあてている。

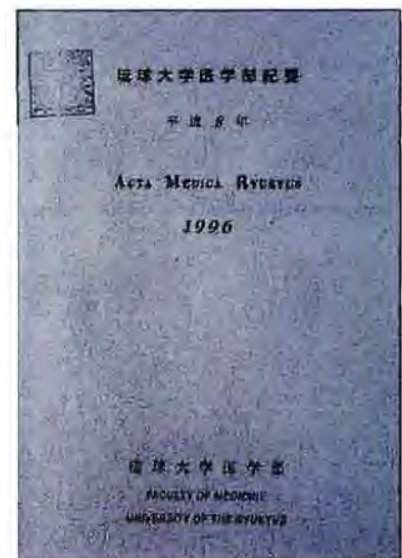
(紀要編集委員長：小杉忠誠)



■ 理学部紀要
【沖縄島嶼研究】



■ 理学部紀要
【RYUKYU MATHEMATICAL JOURNAL】



■ 医学部紀要
【琉球大学医学部紀要】

沖縄関係資料新着案内

1997年11月～1998年1月

0類 総 記

1. 北燕游草／蔡大鼎著；輿石豊伸訳注 京都：オフィス・コシイシ，1997.11（蔡大鼎集：琉球古典漢詩） K099.7-SA
2. 閩山游草；續閩山游草／蔡大鼎著；輿石豊伸訳注 京都：オフィス・コシイシ，1997.11（蔡大鼎集：琉球古典漢詩） K099.7-SA

1類 哲 学

1. 沖縄琉球暦，1998／東洋易学学会総本部編纂 那覇：東洋易学学会沖縄本部，1997.9 K148.8-OK

2類 歴 史

1. 大君外交と東アジア／紙屋敦之著 東京：吉川弘文館，1997.12 K200.1-KA
2. かつて沖縄は独立国であった／安里進編集・解説 東京：日本図書センター，1997.12（琉球・沖縄写真絵画集成，1） K200.8-RY
3. 日本になった沖縄／田名真之編集・解説 東京：日本図書センター，1997.12（琉球・沖縄写真絵画集成，2） K200.8-RY
4. 沖縄全土が戦場になった／我部政男，宮城保編集・解説 東京：日本図書センター，1997.12（琉球・沖縄写真絵画集成，3） K200.8-RY
5. 米軍支配下の沖縄／我部政男編集・解説 東京：日本図書センター，1997.12（琉球・沖縄写真絵画集成，4） K200.8-RY
6. 沖縄・復帰から自立へ／新崎盛暉編集・解説 東京：日本図書センター，1997.12（琉球・沖縄写真絵画集成，5） K200.8-RY
7. 沖縄戦学習のために／安仁屋政昭編著 東京：平和文化，1997.8 K201-AN
8. 平和と自立をめざして：沖縄の転機は日本の転機／新崎盛暉著 東京：凱風社，1997.10（沖縄同時代史，第7巻：1996-1997.6） K201-AR
9. 考古関係資料，2／沖縄県文化振興会編 那覇：沖縄県教育委員会，1997.2（沖縄県

- 史料，前近代10） K210-OK
10. 米国新聞にみる沖縄戦報道／沖縄県文化振興会編 那覇：沖縄県教育委員会，1997.3（沖縄県史，資料編第3巻：沖縄戦3；和訳編） K219.9-OK
11. Coverages of the Battle of Okinawa in U.S.newspapers／沖縄県文化振興会編 那覇：沖縄県教育委員会，1997.3（沖縄県史，資料編第3巻：沖縄戦3；原文編） K219.9-OK
12. 近代統計書にみる歴史，下／沖縄市企画部平和文化振興課編 沖縄：沖縄市役所，1997.3（沖縄市史，第7巻：資料編6） K225-OK
13. きらきらひらら：市制50周年記念誌／平良市制50周年記念事業実行委員会編 平良：平良市，1997.3 K231-HI
14. 士族門中家譜：自分の先祖調べから系図・家譜の作成まで／比嘉朝進著 浦添：沖縄総合図書，1997.7 K288.2-HI
15. 沖縄県民斯克戦ヘリ：大田實海軍中将一家の昭和史／田村洋三[著] 東京：講談社，1997.7（講談社文庫） K289-OT
16. 戦後の沖縄を創った人：屋良朝苗伝／喜屋武真栄著 東京：同時代社，1997.11 K289-YA
17. ゼンリン住宅地図：沖縄県：名護市，1997 北九州：ゼンリン，1997.11 K290.38-ZE
18. ゼンリン住宅地図：沖縄県：那覇市西部，1997 北九州：ゼンリン，1997.12 K290.38-ZE
19. ゼンリン住宅地図：沖縄県：那覇市東部，1997 北九州：ゼンリン，1997.12 K290.38-ZE
20. 南風（パイヌカジ）：沖縄鳩間島から／羽根田治著 東京：山と溪谷社，1997.8 K290.9-HA
21. ガイドブック識名園／沖縄出版編集部編 浦添：沖縄出版，1997.12 K290.9-OK
22. 新歩く・みる・考える沖縄／沖縄平和ネットワーク編 那覇：沖縄時事出版，那覇：沖縄学販（発売），1997.11 K290.9-OK
23. 珊瑚礁の彼方へ：久米島ダイビング紀行／下江淳介著 国分寺：新風舎，1997.7 K290.9-SH

24. ウォーキングマップ沖縄・南西諸島／辰島末弘編 東京：法研，1997.10（歩く旅ガイド）
K290.9-WO
25. 市町村別に見る奄美群島：戦後50年記念誌 宜野湾：近代通信社，1996.9 K291-SH
26. 名護碑文記：碑文が語るふるさとの歴史・文化・人物／名護碑文記編集委員会編；増補改訂版 名護：名護市教育委員会，1997.3（名護市史叢書，4） K291.5-NA
27. 沖縄アイランドのんびリズム伊平屋島：海の学校／伊平屋村漁業協同組合，今井輝光著 東京：三心堂出版社，1997.7 K291.9-IH
28. 新宮古風土記／仲間井左六編 [平良]：近代情報，1997.7 K294-NA
11. 同盟漂流／船橋洋一著 東京：岩波書店，1997.11 K319-FU
12. 中小小売商業の情報化に関する調査：報告書／沖縄県産業振興公社小売商業支援センター [編] 那覇：沖縄県産業振興公社，1997.3 K335.35-OK
13. 沖縄県住宅供給公社30年のあゆみ：The 30th anniversary／沖縄県住宅供給公社編 那覇：沖縄県住宅供給公社，1997.1 K335.7-OK
14. 長寿社会に向けた国民的保健・保養基地形成調査報告書／都市科学政策研究所 那覇：都市科学政策研究所，1994.3 K369.26-TO
15. 牛の教え人の教え：私の教育試論／玉城政信著 那覇：月刊沖縄社，1997.10 K370.4-TA
16. 21世紀のきざし：琉球大学医学部自己点検・評価報告書／「琉球大学医学部自己点検・評価報告書」編集委員会編 西原町（沖縄県）：琉球大学，1997.3 K377.2-RY
17. Speaking out on Okinawa:46 'Gaijin' perspectives from the Shinpo Weekly News／edited by A. P. Jenkins and S. Rajendran Naha, Japan : the Hirugi Pub. CO., 1997 K380-JE
18. 奄美・沖縄女のことわざ／田畑千秋著 東京：第一書房，1997.11（南島文化叢書，19） K380.8-NA
19. 南島を探る：沖縄の生活史／宮良高弘編 札幌：北海道みんぞく文化研究会，1996.12 K382-HO
20. 北海道と沖縄の生活史／宮良高弘編 札幌：北海道みんぞく文化研究会，1996.12（北海道を探る，No.30） K382-HO
21. 神と靈魂の民俗／赤田光男，小松和彦編 東京：雄山閣出版，1997.7（講座日本の民俗学，7） K382.1-AK
22. 星蒔く人へ／ひづきまど著 石垣：大浜伸子，1997.8 K388-HI
23. 沖縄都市近郊・南風原町兼城の文化と社会／国際基督教大学人類学研究室編 三鷹：国際基督教大学教養学部社会科学科人類学研究室，1997.8（文化人類学調査実習報告書，第11輯） K389-BU
24. 訪れる神々：神・鬼・モノ・異人／諏訪春雄，川村湊編 東京：雄山閣出版，1997.9 K389.2-SU

3類 社会科学

1. 壮大なる沖縄ロマン・夢を追い求める群像，第1巻／仲里嘉彦編集 浦添：春夏秋冬社，1997.10 K302-SO
2. 沖縄がすべて／筑紫哲也，照屋林助著 東京：河出書房新社，1997.9 K302-TS
3. いくさ世・沖縄：日米安保崩壊序曲／吉岡攻著 東京：現代書館，1997.8 K302-YO
4. 沖縄未明：「平和世」と主体性回復を阻むもの 東京：システムファイブ，1997.5（ジャステイス，Current03） K302.199-JU
5. 秋霜50年：台湾・東京・北京・沖縄／郭承敏著 那覇：ひるぎ社，1997.11（おきなわ文庫，82） K304-KA
6. クイズで学ぼう琉球・沖縄の歴史：Q&A／新城俊昭著 中城村（沖縄県）：むぎ社，1997.11（若太陽文庫，3） K304-WA
7. 選挙法・政治資金規正法／福永文夫編 東京：丸善，1997.11（GHQ民政局資料「占領改革」，第2巻） K312-GH
8. 米軍政の鉄壁を越えて：私の証言と記録でつづる奄美の復帰運動史／崎田実芳著 名瀬：奄美瑠璃懸巢之会，1997.10 K312-SA
9. 沖縄県CIシンボルマークガイドブック／沖縄県総務部知事公室広報課編 那覇：沖縄県総務部知事公室広報課，[1996.1] K317.2-OK
10. 日本の宝・ヤンバルと珊瑚の海に海上基地はいらない！／安仁屋政昭 [ほか] 編著 那覇：あけぼの出版，1997.9 K319-AN

4類 自然科学

1. 沖縄の島じまをめぐる／沖縄地学会編著；
増補版 東京：築地書館，1997.11（日曜の
地学，14） K455-OK
 2. 琉球列島維管束植物集覧／島袋敬一編著；
改訂版 福岡：九州大学出版会，1997.10
K472-SH
 3. 沖縄の帰化動物／嵩原建二[ほか]著 浦添：
沖縄出版，1997.12 K481.7-TA
 4. 沖縄のホテル：陸生ホタルの飼育と観察／
深石隆司著 浦添：沖縄出版，1997.10
K486-FU
 5. イリオモテヤマネコケイ太飼育日誌：まん
が／比嘉源和原案；日下部由紀代作画 浦添：
沖縄出版，1997.10 K489.5-HI
 6. ほのほの聴診100話：レキオに綴ったメディ
カルエッセー／平田亮一著 那覇：週刊レキ
オ社，那覇：琉球新報社（発売），1997.11
K490.4-HI
 7. ナチュラル・ボディーメーカー／浜田雄
志著 南風原町（沖縄県）：那覇出版社，1997.7
K494.7-HA
 8. 開院5周年記念誌／北部地区医師会病院5
周年記念誌編集委員会[編] 名護：北部地
区医師会病院，[1997.6] K498.16-HO
 9. 沖縄のらいに関する論文集，医学篇／沖縄
らい予防協会編集委員会[編] 那覇：沖縄
らい予防協会，1979.10 K498.6-OK
- 6類 産 業
1. 沖縄振興開発計画総点検報告書 那覇：沖
縄県企画調整部，1980.8 K601.1-OK
 2. 小離島の永続的発展を考える：平成5,6年
度沖縄協会流動研究センター自主研究「小規
模離島の地域振興基礎調査」報告書 東京：
沖縄協会，1995.4 K601.199-OK
 3. 三疊間からの発想／仲里嘉彦著 浦添：春
夏秋冬社，1997.11 K602.9-NA
 4. 貳拾番山御書付（長門・周防）／山内広通
ほか著 林政八書全（琉球）／蔡温ほか著；
沖縄県編 東京：農山漁村文化協会，1997.10
（日本農書全集，第57巻：林業2） K610.8-NI
 5. 展望沖縄の農業／大城喜信著 那覇：琉球
新報社，1997.7 K612-OS
6. Proceedings of the International Sympo
sium on the Biology and Control of Fruit
Flies／etited by K. Kawasaki, O. Iwahashi,
K.Y. Kaneshiro [S.l.:s.n.], 1991
K615.86-IN
 7. マスコミにみるOCSグループの歩み，昭和
62年-平成8年／オークス編 那覇：オー
クス，1997.3 K673.37-OC
 8. ケービンの跡を歩く／金城功著 那覇：ひ
るぎ社，1997.10（おきなわ文庫，81）
K686.21-KI
 9. 沖縄における行・催事や史跡等の観光・リ
ゾート産業への有効活用に関する調査報告書：
平成5年度沖縄総合事務局委託調査 [那覇]：
沖縄計画研究所，1994.3 K688-KO
 10. 沖縄県観光振興基本計画中期行動計画：国
内外観光地との市場競争力の強化に向けて，
平成7年度-平成9年度 那覇：沖縄県，1995.1
K688-OK
 11. 沖縄におけるリゾートとリサーチパーク等
の複合化による地域開発基礎調査報告書：平
成5年度沖縄総合事務局委託調査 [東京]：
長銀総研コンサルティング，1994.3 K688-OK
- 7類 芸 術
1. 田中一村の彼方へ：奄美からの光芒／加藤
邦彦著 東京：三一書房，1997.10 K721.9-KA
 2. 宮城与徳：移民青年画家の光と影／野本一
平著 那覇：沖縄タイムス社，1997.11
K723.1-MI
 3. 沖縄アクターズスクール公式ガイド：めざ
せ、スーパースター！ 東京：ネスコ，東京：
文芸春秋（発売），1997.9 K760-OK
 4. 華の舞ごころ：琉球舞踊に生きて／佐藤太
圭子編著 那覇：沖縄タイムス社，1997.12
K766.9-SA
 5. 沖縄Divingポイントマップ集，ケラマ編／
沖縄マリン出版編 南風原町（沖縄県）：沖
縄マリン出版，1997.8 K785.3-OK
 6. Okinawa Fishing Point：空と水中から見
た「完全攻略本」：保存版／沖縄マリン出版編
著 南風原町（沖縄県）：沖縄マリン出版，
1997.7 K787.1-OK
 7. 月刊空手道，創刊号-第10号／金城裕編；合本

復刻版 宜野湾：榕樹書林, 1997. 8 K789.2-KI
 8. 月刊空手道, 第11号-終巻第18号/金城裕編;
 合本復刻版 宜野湾：榕樹書林, 1997. 8
 K789.2-KI

8類 語 学

1. 実践首里語テキスト/又吉元亮著 那覇:
純スイ会, 1997. 9 K880-MA
2. 仲宗根政善言語資料(手稿)目次集/狩俣
幸子編 西原町(沖縄県):琉球大学附属図
書館, 1997. 3 K880-NA
3. マンガから学ぶ沖縄語(うちなーぐち):
スイスイ聞けるようになる/玉城雅巳著 那
覇:南風社, 1997. 9 K880-TA

9類 文 学

1. 琉球弧の世界:大城立裕の文学/里原昭著
名瀬:本処あまみ庵, 1997. 8 K900-SA
2. 那覇を詠う:詩歌集:那覇市制75周年/那覇
市文化局歴史資料室編 那覇:那覇市, 1997. 3
K910-NA
3. 於茂登岳:句集/嶋根大和著;海老根筑川
編 二宮町(神奈川県):鹿火屋会, 1994.11
K911-SH
4. 琉歌の里めぐり:ロマンを求めて/青山洋
二編著西原町(沖縄県):郷土出版, 1997.8
K913-AO
5. すべての怒りは水のごとくに/灰谷健次郎

- 著 東京:倫書房, 1997. 2 K913-HA
6. 龍樋 那覇:梯梧の花短歌会, 1995. 3
([梯梧の花短歌会]合同歌集, 第4回)
K915-DE
 7. 星空間(ぶしいびろーま):詩集/鮑浦敏
著;鮑浦葉子装画・挿絵 大阪:湯川書房,
1996.11 K917-AK
 8. 僕は文明をかなしんだ:沖縄詩人山之口獮
の世界/高良勉著 東京:彌生書房, 1997.11
K917-TA
 9. 嘉手志:詩・連音/上原紀善著 [豊見城
村]:上原恵子, 1996.10 K917-UE
 10. はるかニライ・カナイ/灰谷健次郎著 東
京:理論社, 1997. 5 (理論社ライブラリー)
K930-HA
 11. 水滴/目取真俊著 東京:文芸春秋, 1997. 9
K930-ME
 12. 琉球新報日曜評論, 3/琉球新報社編 那
覇:琉球新報社, 1997.11 K940-RY
 13. 琉球新報日曜評論, 4/琉球新報社編 那
覇:琉球新報社, 1997.11 K940-RY
 14. 月の家族/島尾伸三著 東京:晶文社,
1997. 5 K940-SH
 15. 花に逢はん/伊波敏男著 東京:日本放送
出版協会, 1997. 6 K950-IH

注)各資料末尾の記号は請求記号です。

本学教官著作寄贈図書案内

1997年11月～1998年1月

A. P. Jenkins (法文学部)

Speaking out on Okinawa:46 'Gaijin' Perspectives
from the Shimpo Weekly News/edited by A.P.
Jenkins and S. Rajendran Naha, Japan: the Hirugi
Pub. Co., 1997 K380-JE

加藤祐三 (理学部)

沖縄の自然を知る/池原貞雄, 加藤祐三編著
東京:築地書館, 1997.10 K402.91-IK

島袋敬一 (名誉教授)

琉球列島維管束植物集覧/島袋敬一編著
;改訂版 福岡:九州大学出版会, 1997.10

K472-SH

注)各資料末尾の記号は請求記号です。



図書館事情

【会議】

◎平成9年度第3回琉球大学附属図書館自己
評価委員会

日 時：平成10年2月5日（木）
15時00分～16時50分

場 所：附属図書館会議室

【協議事項】

1) 附属図書館自己点検・評価報告書（未定稿）について

◎平成9年度第1回琉球大学附属図書館電子機能検討委員会

日 時：平成9年11月21日（金）
10時30分～11時40分

場 所：附属図書館会議室

【協議事項】

1) 平成11年度概算要求事項（案）について

2) 平成10年度科学研究費補助金（データベース研究成果公開促進費）の申請について

3) 平成10年度CD-ROM購入タイトルについて

【講演会】

◎日 時：平成10年2月9日（月）

13時30分～17時

場 所：附属図書館多目的ホール会議室

演 題：「京都大学における電子図書館の取組状況」

演 者：京都大学附属図書館情報管理課
図書館専門員 片山 淳

演 題：「UNIXオープンシステムによる図書館の業務」

演 者：名古屋大学附属図書館情報システム課長 田中 榮博

◎日 時：平成10年3月5日（金）

13時30分～17時

場 所：附属図書館多目的ホール会議室

演 題：「アメリカにおける電子図書館事情」

演 者：東京大学附属図書館情報サービス課運用主任 栃谷 泰文

演 題：「大学図書館機能の高度化へ向けて」

演 者：岡山大学附属図書館事務部長 橋本健一

平成9年度第3回沖縄県大学図書館協議会講演会を開催

2月23日（月）に琉球大学附属図書館1階多目的ホールにおいて平成9年度第3回沖縄県大学図書館協議会講演会が開催され、当日は各加盟大学図書館7館の図書館長を始め約50名の図書館職員が参加した。

講演は、講師に名桜大学附属図書館長の伊江朝章先生を迎え「人間の異常性について：少年はだれでも『酒鬼薔薇聖斗』になれるのか？」という演題で行われた。記憶に新しい話題でもあり、参加者は熱心に講演に聞き入り、1時間半の予定を過ぎても質問が続き、盛況のうちに終了した。（システム管理係）



図書館年間主要スケジュール（平成10年度）

図書館の年間スケジュールは、下表のとおりです。なお、臨時に閉館または開館時間を変更することがありますので、ホームページ、掲示等にご注意ください。

	大学行事等	図書館行事等	休業期等		祝日開館	
			本館	分館		
4月	1～5日 春季休業	----->	★	★		
	8日	新入生オリエンテーション		○		
	20～24日	新入生のための図書館ツアー	○			
5月	22日 開学記念日	----->	休館			
6月		次年度雑誌新規中止希望調査				
6月	26日	長期貸出開始（返却9/10）				
7月	11日～ 夏季休業	----->	★	★		
8月	～31日 夏季休業	----->	★	★		
9月	16～22日 前学期期末試験	----->	----->			☆
	23日～ 秋季休業	----->	★			9/15
10月	1～4日 秋季休業	----->	★			
11月	14～15日 大学祭（琉大祭）	----->	休館			
12月	11日	長期貸出開始（返却1/16）				
	25日～ 冬季休業	----->	★	★		
	28日～1/4 年末年始	----->	休館			
1月	～6日 冬季休業	----->	★	★		
	16～17日 入試センター試験	----->	休館			
2月	5日	長期貸出開始（返却4/13）				
2月	12～18日 後学期期末試験	----->	----->		☆	
	19日～ 春季休業	----->	★		2/11	
	25～26日 入学者選抜試験予定	----->	休館			
3月	～31日 春季休業	----->	★			

通常の開館時間は、平日 8:30～22:00 土曜日・日曜日 13:00～17:00

(注) ★ は、開館時間の短縮を示す。(休業期)

平日 8:30～17:00 土曜日・日曜日 閉館

(※分館の春季、秋季休業中は通常通りの開館となります)

☆ は、試験期祝日開館を示す。(試験期間は月の1日から試験終了日まで)

祝日 13:00～17:00

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第31巻 第2号（通巻第118号）

平成10年4月発行

発行 琉球大学附属図書館 〒903-0214 沖縄県中頭郡西原町千原1番地

電話 098(895)8168 Fax.098(895)2651 編集 びぶりお編集委員会